

# 令和3年度 国語研究全体計画

## 1 研究主題について

### 主体的・対話的で深い学びを通して思考力を育む国語学習

～多様な情報を関連付けながら、読みを深める授業づくり～

#### (1) 本校でとらえる「思考力」とは

「確かな学力」について、文部科学省は「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」と述べている。

また、平成29年度告示の小学校学習指導要領解説国語編では、国語科の目標(2)で「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」と挙げ、思考力を「言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力」と述べている。さらに、文学的な文章の解釈に関する事項においては、「文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていること、あるいは書かれていないことについて、具体的に想像すること」と述べている。以上のことから、本校では「思考力」を、「言葉を手掛かりとしながら、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていることをもとに書かれていないことを想像して読みを深めていく力」と捉える。

本校の児童の実態として、今までの積み重ねから、目的をもって読んだり、相手意識をもって書いたりすることに対して、抵抗感なく取り組む姿が見られる。平成31年度の全国学力・学習状況調査では、全般的に全国平均及び県平均を上回っている。領域別においては「書くこと」が最も高い。中でも「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる力」の点数が高かった。しかし、「読むこと」の「目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む」問題に課題がみられた。たくさんの叙述や友達の意見から、目的や設定した課題を追究するために、言葉一つ一つに着目し、読み取った事をどう関連付けていくかという力が、本校の子供たちに求められている。

これらのことから、主体的に個々の読みを深めたり、互いに考えを伝え合ったりする学習を通して「思考力」を育む必要があると考えた。そのために、「自ら課題を見つけ追究し、読みを深めていく力」を高める指導を行っていく。

#### (2) 「主体的」とは

**課題意識をもち、自分なりの考えを探して深めようとする学び  
～「なぜ?」「解決したい!」「伝えたい!」気持ちが生まれる授業作り～**

「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考力」を育てるために欠かせない要素の一つであり、告示された次期学習指導要領でも重要視されている。

児童が、教材に対して課題を自覚した時、初めて教材に主体的に関わり「考える」必要性が生まれる。そして、「言葉のつながり」や「言葉の仕組み」を根拠に思考・判断したり、論理や作品のおもしろさを評価したりしながら課題解決に向かう。子供たちの主体的な学習を実現し、課題解決の過程を設定することは、思考・判断・評価という論理的な思考活動や、他者との対話的な活動により深い学びを実現するものである。

そこで、子供たちの主体的な学びを引き出すために、①学習材との出会わせ方の工夫②問いをもち、課題を設定する手立ての工夫③課題追究のための読み深め

方の工夫④読み取ったことを発信する活動の工夫⑤追究の過程をふり返り、自分の読み深まりを味わう工夫、を行っていく。「読む」必要感が生まれるよう、一人一人が、自分自身の課題として捉え、自分の思いや考えを生かすことができる単元学習を目指していく。

簡単に一つの答えを導くことができないような、より複雑な社会で生きることになるであろう子供たちが、それぞれの課題に対し、自分なりの考えや答えを導き出せるように主体的に取り組める力を身に付けさせたい。そのために本校では、学ぶ原動力となる「関心・意欲」を引き出すような国語学習の在り方に迫りたい。

### (3)「対話的」とは **自己内対話と相互作用的对話を、目的と観点をもって行う学び**

#### ～「伝えたい」「聞きたい」「話し合いたい」意欲や必要感を生む授業作り～

変化の激しい、多くの課題が立ちだかる現代社会において、さまざまな背景をもつ人同士で手を取り合って生きていくことは必要不可欠であるだろう。その際に、それぞれの立場の考えをもち、相手の考えも汲み取りながら、解決していくことが望まれる。そのためには、それぞれの考えを尊重しながら、同じ目的に向かって、力・心を合わせて話し合う力が求められる。

そこで本校では「自らの考えをふり返り、より明確にする事」「相手の意図を汲み取り、認め、共感する事」を「対話的な学び」の観点として学び合いの場を設けることとした。自己内対話と相互作用的对話を組み合わせて行うことで、深い学びにつながると考えたからである。

対話的に学ぶことの良さとして、①多様な情報を活用できること②異なる視点を出し合うことで、事象に対する見方や考え方が多角的になること③他者と力を合わせることで成し遂げられる達成感を実感できること、の3点が挙げられる。この良さを児童に実感させるためにも、教師は学習者中心の授業を組み立て、児童が能動的に学習に取り組むことができるように意識する必要がある。特に考えの共有を行う際には、学習者中心でありながら、決して放任ではなく、教師は支援者としての役割を担うことを心がけたい。

本校では、このような学び合いを意図的に学習の中に取り入れながら、話し合いの仕方を身に付けさせることもねらっていく。

### (4)「深い学び」とは

#### 「言葉による見方・考え方」を活用しながら、自分の思いや考えを広げ深める学び ～「主体的な学び」と「対話的な学び」をスパイラルに絡み合わせ、 児童の向上的変容を目指す授業作り～

中央教育審議会「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめのポイント」では、「深い学び」の実現に向けて、「言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることが考えられる。」と述べている。

「深い学び」の実現を目指す時、その推進力となるのは子供たちの、学びに向かう「主体的」な態度である。これがなければ「対話的な学び」は、活動や形態などの外形だけの工夫にとどまってしまう。主体性を喚起し、持続させる鍵を握るのは「学習課題」である。学習課題が明確になることによって子供たちの主体的な学びが動き出し、それが「考えを伝え合いたい」という対話的な学びにつながっていくのである。

このように、「深い学び」は「主体的な学び」と「対話的な学び」がスパイラルに絡み合うことで実現されるものであるといえる。

深い学びを通して身に付ける確かな思考力は、子供たちの日常生活や未来へとつながっていく。「なぜ?」「どうして?」という自然に湧き上がる問いを解決すべ

き課題として昇華させ、対話を行ったり、考えをふり返ったりしながら、追究する学びのおもしろさを子供たちに味わわせていく。

「主体的」「対話的」「深い学び」のイメージ関連図



- ※ 「主体的」：課題意識をもち、自分なりの考えを探し深めようとする姿
- 「自己内対話」：もう一人の自分との対話：考えの認識，相手の発言に対する考え，考えの変容
- 「相互作用的対話」：相手の考えの受容，自分の考えの表現，観点を明確にした話し合い

(5) 研究経過と子供の実態から

本校では平成28年度から平成30年度まで「主体的・対話的で深い学びを通して思考力を育む国語学習」の主題のもと研究を進めてきた。3年間の研究の成果により、以下のような力が身についたと考える。

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語を読んで、自分なりの問いをもち、繰り返し読むことで追究していく読み方を習得することができた。</li> <li>○物語の山場やキーワードとなる文や言葉に着目・選択することができた。</li> <li>○本文を根拠として、自分の考えを表現できた。</li> <li>○観点を明確にした学びあいを行ったことで、学び合いの態度や習慣が日常化されてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文や言葉に対して多様な解釈を生み、読みを深めたり広げたりするために、様々な観点から考えられるような情報を与える必要がある。</li> <li>●相手の考えを受容的に聞くことはできているが、それを受けて自分の考えと比べたり、組み立て直したりする力が不足しているため、学び合いの質を高めていく。</li> </ul>

以上の点から、研究主題「主体的・対話的で深い学びを通して、思考力を育む国語学習」を更に追究する必要性があるということで、本研究主題を設定することとなった。

## 2 研究副主題について

### ～多様な情報を関連付けながら、読みを深める授業づくり～

#### (1) 多様な情報を関連付けるとは

##### ～友達の考え・文・言葉を関連付けて、自分の考えを組み立て直す～

中教審の答申  
との関連

本校が「多様な情報を関連付ける読み」に注目した理由は、2つある。1つ目は中央教育審議会による「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」に示されている内容からである。

グローバル化の進む現代において、世界ではOECDによる取り組みや国際バカロレアのカリキュラム、ユネスコによるESDなど、新しい時代に必要な資質・能力の育成に必要な取り組みが行われている。これらに共通することは、「ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・対話的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に活かしていけるようにすることが重要」視されていることである。

今回の中教審の答申での大きな変化は、「何を学ぶか（教えるか）」という内容だけでなく、「どのように学ぶか」という方法まで踏み込むということである。子供たちが、これからの時代に求められる「学んだことを実生活に活かす力」を身に付けるには、国語科として、「多様な情報を関連付ける読み」を行う場や工夫を行う必要があると考える。なぜなら、子供たちがこれから生きる社会は、多様性に富み、複雑な課題に直面する機会が今まで以上に増えることが考えられるからである。多様な情報を自分なりに精査・解釈し、課題の解決に向けて再構築する力を身に着けることで、日常生活の中でもその場にあった方法を選び出せるようにしたい。

新学習指導要領と  
の関連

2つ目は新学習指導要領からである。国語科の改訂の趣旨及び要点「情報の扱い方に関する指導の改善・充実」について「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えを形成に活かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と述べられている。話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章で自分の考えを適切に表現することにつながるため、これまで以上に授業内に意図的に情報と情報の関連付けを意図した手立てを取り入れるべきと考えた。

#### 本校が捉える情報の関連付け



本校では、文学的文章の情報を「聞く情報」と「読む情報」の二つの柱に分けて考える。図の通り、「聞く情報」は「友達の考え」「教師・友達による問い返し」「音読」等の耳から入る情報、「読む情報」は「物語の叙述」を中心に、「既習揭示」等も情報として扱うこととする。更に、「他教材」の読みを加え、複数テキストの情報を集め、関連付ける読む能力の向上を図っていく。

これらの多様な情報を取り入れ、自分の考えと比べて考えることで、表出する「話す・書く」表現の質的向上、すなわち読みの深まりの表れにつながると考えた。

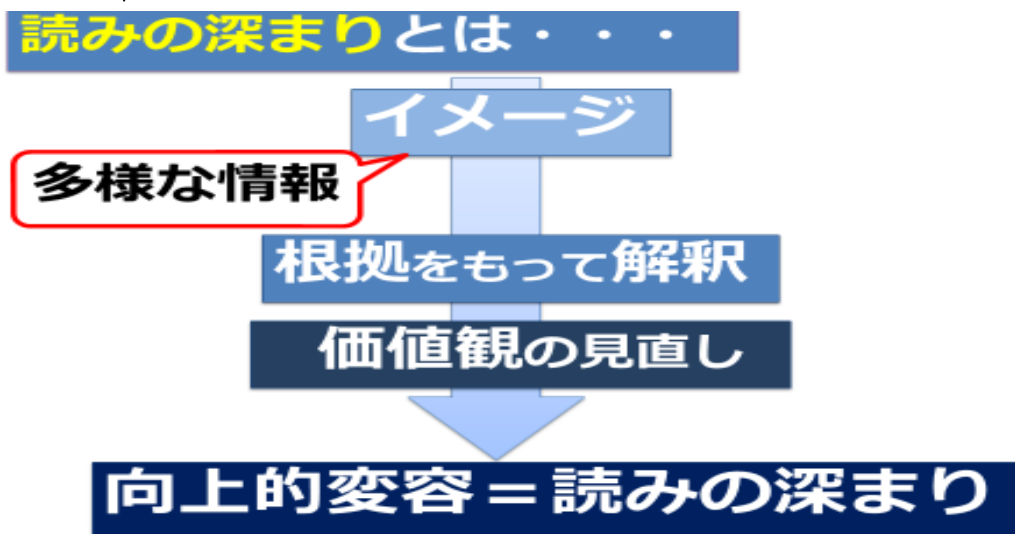
## (2)「読みの深まり」とは

～書かれていることを手がかりとして、直接書かれていない事を読み取るという目的のもと、自分の思いや考えを広げ深め、向上的な変容を遂げる～

前項で述べたように、「深い学び」とは「言葉による見方・考え方を活用しながら、自分の思いや考えを広げ深める学びの事」である。これを文学の読みの学習に当てはめて考え、「書かれていることを手がかりとして、直接書かれていない事を読み取るという目的のもと、自分の思いや考えを広げ深め、向上的な変容を遂げる事」とおさえる事とする。

向上的な変容は、他者（教師や友達）による評価だけでなく自分で認識する事で、次の学びに活かされていくと考える。学びをふり返る時間を確保すると共に、児童が自らの変容を感じる事の出来るような単元構成や授業作りをする事が必要となる。

文学の読みの学習を通して、その教材のみの読み深めにとどまらず、子供たちの生涯に活用できる読みの力をつけられるように、授業作りを行う。



読みの深まりとは、「向上的な変容」を遂げることと本校では捉えている。向上的な変容とは、「新しい価値に気が付いたり、多面的・客観的に考えられたり、根拠をもって具体的に考えられるようになったりする」内面的なよい変容のことを言う。

上記は読みの深まりのイメージ図である。上の階層ほど、読者である読み手に意識されやすく、下の階層ほど、意識されにくいという特性がある。

初読の段階では曖昧だったイメージや登場人物への評価が、根拠となることばを見つけ、その解釈を行うことで輪郭を帯びること。また他者の視点を取り入れることで多面的に考えられるようになることで、自分の価値観を広げたり深めたりすることにつながる。これらが本校の捉える読みが深まる具体的な姿である。

各学年の実態や学習材の特性に合わせて、読みが深まる姿を具体的に教師がもってから単元構成や授業作りを行うことが必要となると考える。

### 3 研究の目的

文学を中心とした課題追究を通じた読みの授業において、主体的、対話的で、深い学びを取り入れれば、思考力、判断力、表現力を育てることができることを実践を通して明らかにする。

### 4 研究内容

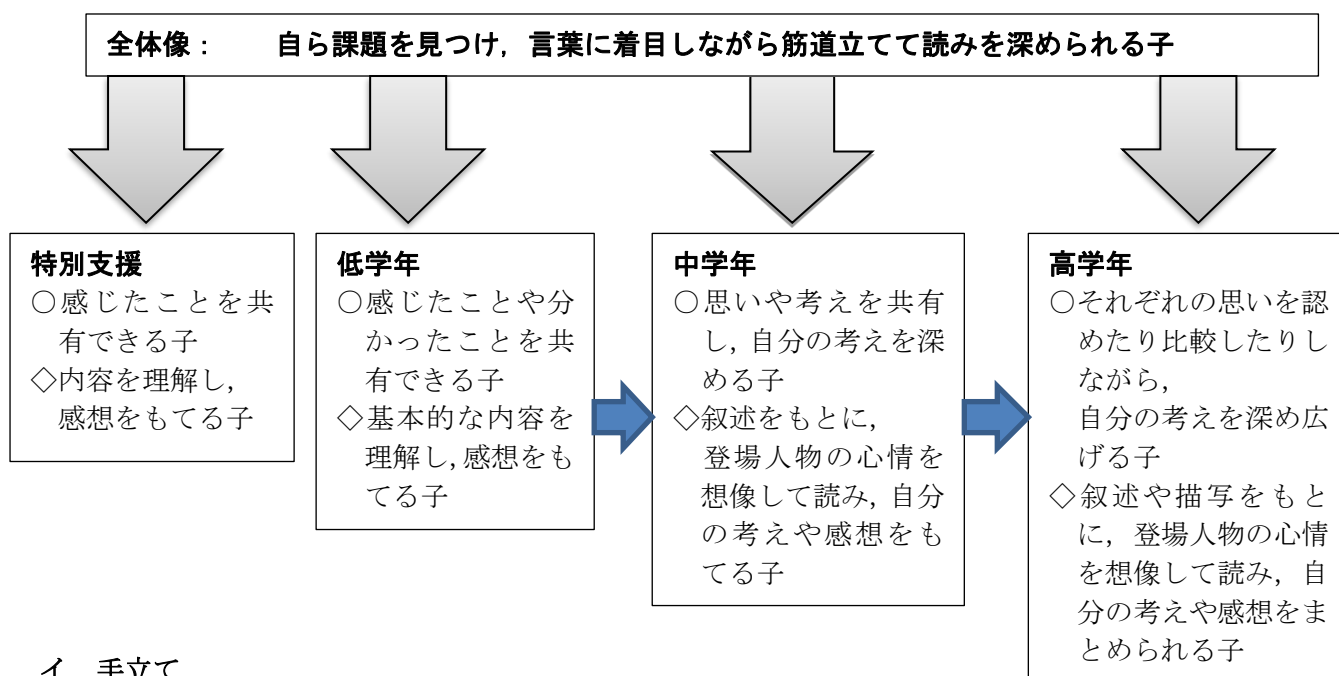
#### (1) めざす子供像と手立て

##### ア めざす子供像

本校の学校教育目標は、「知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と生きる力を身につけた子供の育成」であり、めざす子供像を次のように掲げている。

・自ら本気で学ぶ子    ・思いやりのある子    ・たくましい子

この学校教育目標を具現化するために、国語研究においてめざす子供像を以下のように設定した。そして、特別支援・低・中・高学年の部会ごとにより明確な子供像を設定し、その姿に近づくため指導や支援を手立てとして工夫しながら追究し、その効果を検証していく。



##### イ 手立て

#### ① 主体的な学びを促す工夫

課題意識をもち、自分なりの考えを探して深めようとする学び  
～「なぜ?」「解決したい!」「伝えたい!」気持ちが生まれる授業作り～

○身に付けたい力を明確にする・・・これまでの学習履歴を基に、身に付けたこと、身に付いていないことを明らかにし、付けたい力を学年ごとに明確にしていく。

○学習材との出会いの工夫

- ・教師による読み聞かせ、音読等を行い、子供の意欲を高める教材提示を行う。
- ・要約する学習等を取り入れ、作品の概要をつかめるように工夫する。

○課題設定の工夫

- ・子供一人一人にとって、解決する必然性のある課題を設定する。
- ・音読等で物語の概要をつかませ、課題設定の素地を作る。

## ② 対話的な学び合いの場の設定

自己内対話と相互作用的对話を、目的と観点をもって行う学び  
～「伝えたい」「聞きたい」「話し合いたい」意欲や必要感を生む授業作り～

### ○「学び合い」の基本の実践

- ・視点の設定・・・相手の意図を汲み取り、共感し、肯定し、受け止める。
- ・課題設定の工夫・・・学習者の課題追究が学習の中心になるような課題を設定する。
- ・形態や場の工夫・・・質問・応答がしやすい形態や場を工夫する。(ペア・小グループ・一斉)  
※コロナ禍での学習形態の工夫が必要である。

## ③ 言葉の力を付けるための支援・評価の工夫

学びをふり返り、学習を豊かにする支援。

### ○評価の観点を明確にし、自分についての力をふり返る場の設定・工夫

- ・自己評価、ふり返りの場の設定
- ・書いたものを共有する場の設定

### ○教師の評価・検証の充実（教師側の評価）

- ・評価規準を具体的に示す。
- ・評価方法の明確化・・・取り組む姿・ノート・作品・自己評価やふり返りの内容 等

## ④ 日常の言語生活の耕し

基本的な言葉の力を付け、国語の基礎体力をつける。様々な場面での「読む」「書く」「話す」の活動。

### ○日常の言語生活との関連

- ・朝のモジュールの活用・・・名文や詩、古典等の音読・視写・創作  
言葉の特徴やきまりに関する学習  
新出漢字の定着
- ・ことばの集会の実施・・・モジュールの時間を中心に取り組んできた音読・群読を、学年ごとに  
全校の前で発表する。(コロナの状況を見て判断)
- ・校内の言語環境の充実・・・子供の作品を図書室やガラスケースに置いておき、全学年が読めるよ  
うにする。  
掲示物の整備。(職員玄関前・各学年の掲示板・各クラスの掲示)  
階段に語句カードの掲示(季語等)
- ・学級内や校内行事を通してのスピーチ・・・朝の会、帰りの会等を利用して行う。その際、スピー  
チに対する質問・応答活動を行うようにする。  
始業式や終業式での学年ごとのスピーチを行う。
- ・読書をする時間の確保・・・週1日の朝の読書タイムを定着させる。

### ○単元学習における読書活動の充実

- ・事前読書、並行読書等の多読・・・シリーズ作品、同一作家作品、関連図書の選書等、読書の目  
的を明確にして活動させる。

### ○ICTの活用

- ・NHK for school 等を活用して、言葉の特徴や使い方、話し合いの仕方を学ぶ。
- ・拡大投影機を活用して、挿絵や子供のノートを見せる。

## (2) 3カ年計画(案)

年度	研究計画
令和元年度	○共通教材から、他教材へ効果的に広げる手立ての追究 ○他者の考えを受け止めて、自分の考えを組み立て直す手立ての追究
令和3年度 (本年度)	○言葉がもつよさを認識し、自らの考えを形成する手立ての追究 ○多様な情報を整理し、多面的に解釈する手立ての追究
令和4年度	○言葉にこだわって読み、自らの考えを再構築する手立ての追究 ○多様な情報を整理し、表現する力を育てる手立ての追究

### 4 令和3年度 研究の重点

#### ① 言葉がもつよさを認識し、自らの考えを形成する手立ての追究

「言葉がもつよさ」については、国語科学習指導要領の目標(3)に提示されている。その中には、「言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて人や社会と関わり自他の存在について理解を深めたりすること」と説明されている。

本校なりに、「言葉がもつよさ」について考えた。まず「言葉」は、自分の思いを伝えるための手段であり、コミュニケーションに欠かせないものである。自分の中に語彙が増えることによって、自身の思いや、わずかな心の揺れ動きまで、明確に表現することができる。思いを言語化するためには、語彙を増やすことが重要となってくる。さらに物語文においては、登場人物の心情を表す言葉や情景を浮かび上がらせるような言葉が散りばめられている。それらを読み取ることができたならば、物語の世界は広がっていくだろう。子供たちに、その素晴らしさを認識させていきたい。

さらに「自らの考えを形成」とは、自分の中で根拠をもって読み、それを他者へとアウトプットすることで、共通点や相違点に気付き、自身の考えをどんどん変容させていくことにあると考える。(向上的変容)

そのためにできる手立ては、例えば望ましい問いづくりを行うこと、毎時間のふり返り、一人読みの時間の確保、一言一句を大切に読む、視点を変えて読む、等が挙げられる。

語彙を増やして豊かな言語感覚を育ていき、自らの思いや考えを互いに伝え合うことで、新しい発見や自己の成長につなげられるようにしたい。

#### ② 多様な情報を整理し、多面的に解釈する手立ての追究

「情報」については、中央教育審議会答申において、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と指摘されている。国語科学習指導要領においては、「自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながる」と述べられている。

本校では先述した通り、文学的文章の「多様な情報」を「聞く情報」と「読む情報」の二つの柱に分けて考える。「聞く情報」は「友達の考え」「教師・友達による問い返し」「音読」等の耳から入る情報、「読む情報」は「物語の叙述」「挿絵」を中心に、「作者の思い・生い立ち」「既習掲示」等も情報として扱うこととする。これらを自身の経験と結び付けながら整理していく。その「整理」とは、散乱している情報の中から重要なところを判断し、それを取捨選択、さらに活用していくことを指す。そのためには、整理の仕方の工夫が必要になってくる。手立ての例としては、板書を色分けするなりして思考を可視化すること、読み取る際には人物プロフィールや相関図の活用等が挙げられる。思考を整理していく中で、同じ文章を読んでも解釈が異なることがあることに気が付くであろう。そのような姿を「多面的に解釈できる」と捉える。根拠のある様々な解釈を受け止め、さらに自分の読みに生かしていくことができる姿を目指したい。



## ※令和3年度 単元モデル

一 次 初 読	<b>物語の概要をつかむ</b> ○学習材と出会う。(音読・読み聞かせ・あらすじの把握) ○読みの素地を作る。 ○初発の感想を書く。 ○個人の間いをもつ	
二 次 再 読	<b>場面読み (低学年)</b> 中心人物の言動を追いながら、場面ごとに課題を設定し気持ちの変化に気づいて読みを深めていく。	<b>課題読み (中学年以上)</b> 物語全体を通した課題を設定し、人物や物事の関連性を読み取り、様々な視点に立って読みを深めていく。
	<b>焦点化の読み (全学年)</b> 人物の言動・描写を手がかりに、言動の意味を読む。	
三 次 発 展 読 書	<b>読み深めた事を表現、対話する事でふり返り、自身の向上的変容を知る。</b> ○人物像・作品像について話し合う。 ○作品の魅力について話し合う。 ○全体を見通す課題を設けて、改めて物語全体をどう読んだのかをふり返る。 ○表現活動を行う。 ○表現したことを伝え合う。	

## 5 研究方法

### (1) 基本姿勢

国語研究を通して、「学び方」を身につけさせ、子供の言語生活の向上を図るとともに、よりよい人間関係作りができるような子供に育てていく。各学年・特別支援教育ブロックごとに子供の発達段階を考慮した「めざす子供像」を設定し、つけたい言葉の力をはっきりさせた単元開発・授業実践を行う。

### (2) 授業研究

5、6月に授業研究を全学級実施する。講師と学年のメンバーによる指導案検討、授業参観、研究協議会を行う。本時の目標やめざす子供像にせまるための手立てが適切であったかを具体的に協議し、講師の指導のもと研究を進める。

(昨年度は11月に研究主任・研推1人の授業を参観・講師あり、2月に学年ブロックで実施)

### (3) 検証方法

子供の伸びをより明確にとらえるために、実践の検証に重点を置く。より具体的に単元の目標(評価規準となるもの)を設定し、それに基づいて、

- ・成果物(子供の作品やノートの記述内容)
- ・自己評価(ふり返りの内容)
- ・観察(子供の学習に取り組む姿)

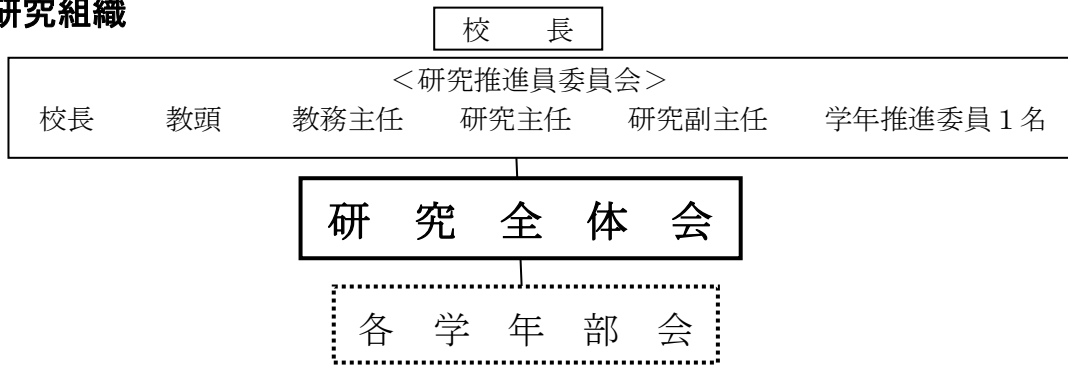
を単元の目標(評価規準)に照らして評価し分析する。そして、取り上げた言語活動が適切であったのか、めざす子供像にせまるための手立てが有効であったかどうかを検証する。

### (4) 研究全体会

研究全体会は、年4回設ける。(4月、8月、10月、2月)各学年・特別支援教育の研究内容の共通理解を図るとともに、講師から今後の研究の方向性を指導していただく場とする。

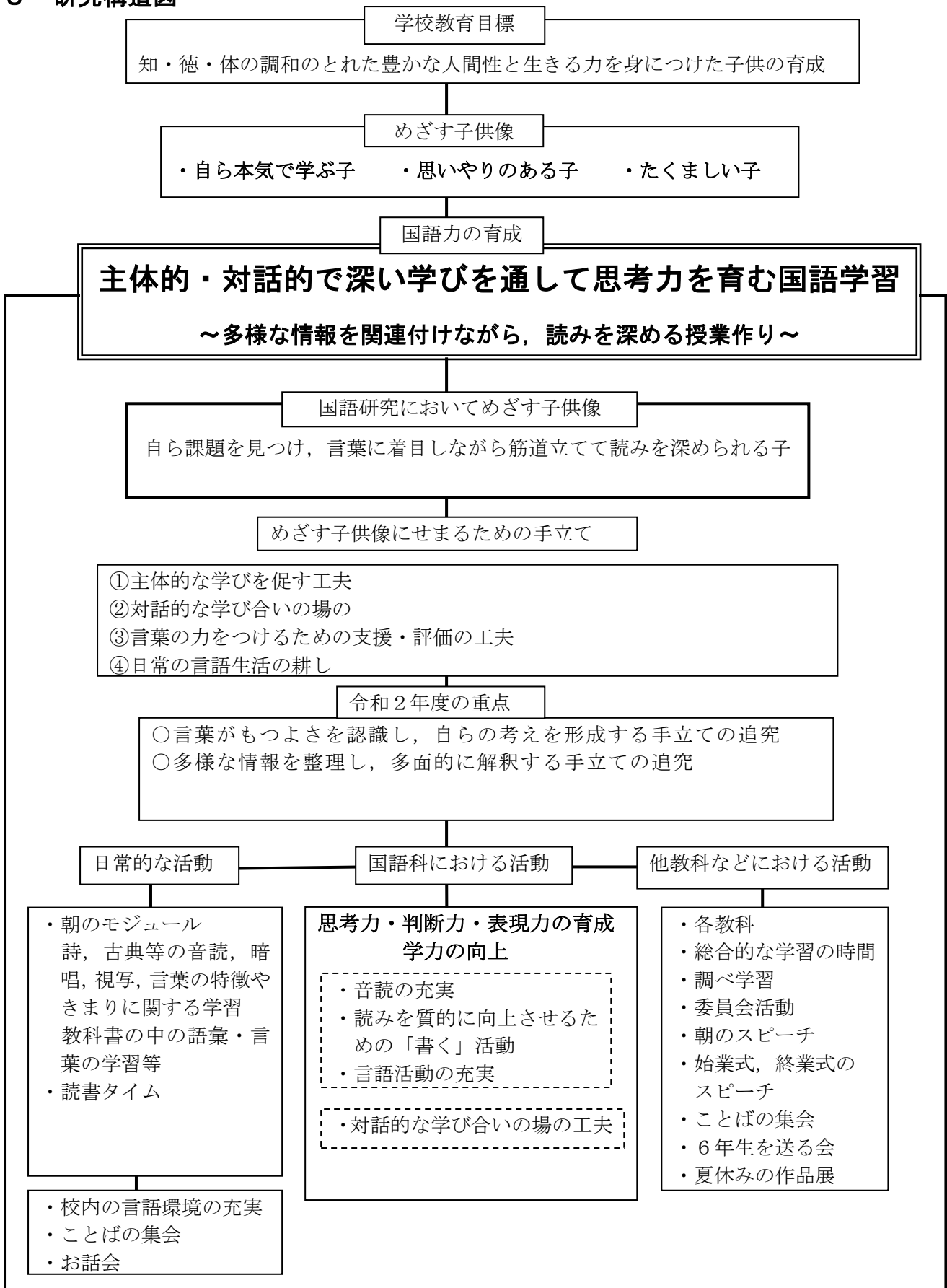
(昨年度は6月・2月のみ)

## 6 研究組織



## 7 講師の先生方

## 8 研究構造図



## 9 研究日程（案）

月	研究日	研究の内容
4月	日	第1回研究推進委員会（今年度の研究体制の確認）
	日	<b>第1回研究全体会（研究計画案）</b>
5月	日	第2回研究推進委員会（研究授業の日程・指導案の形式）
	日	学年 第1回授業研究指導案検討 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究指導案検討 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究指導案検討 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究指導案検討 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究指導案検討 先生御指導
6月	日	学年 第1回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第2回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第2回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第2回授業研究会 <b>第2回研究全体会（提案授業反省）</b> 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第1回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第2回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第2回授業研究会 特支 第1回授業研究指導案検討 先生御指導
7月	日	学年 第1回授業研究会 先生御指導
	日	学年 第2回授業研究会 先生御指導
	日	第3回研究推進委員会（授業研究反省・7月の研究全体会について）
	日	特支 第1回授業研究会 先生御指導
8月	日	学年 公開研究会指導案検討 先生御指導
	日	<b>第3回 研究全体会（1学期研究報告・公開に向けて）</b>
	日	学年 公開研究会指導案検討 先生御指導
	日	学年 公開研究会指導案検討 先生御指導
	日	学年 公開研究会指導案検討 先生御指導
	日	学年 公開研究会指導案検討② 先生御指導
	日	学年 公開研究会指導案検討② 先生御指導
	日	特支 公開研究会指導案検討 先生御指導
	日	学年 公開研究会指導案検討② 先生御指導
	日	学年 公開研究会指導案検討② 先生御指導
9月	日	第4回研究推進委員会（公開研究会について）
	日	学年研究日（公開研究会指導案・授業について）

	日	学年研究日（公開研究会指導案・板書計画の検討）
	日	学年研究日（公開研究会指導案の確認・印刷等）
	中旬	公開研究単元導入
10月	日	第5回研究推進委員会（全体提案内容の確認）
	日	学年研究日（公開単元の進め方について）
	日	<b>全体提案リハーサル</b>
	日	第6回研究推進委員会（公開研究会当日の確認）
	日	公開研究会前日準備
	日	<b>第45回公開研究会</b>
	日	公開研究会後片付け
11月	日	学年研究日（公開研究会反省）
	日	第7回研究推進委員会（研究のまとめについて）
	日	学年研究日（研究のまとめについて）
1月	日	第8回研究推進委員会（研究アンケートについて）
	日	学年研究日（研究のまとめ・研究アンケート）
	日	学年研究日（研究のまとめ・研究アンケート）
2月	日	第9回研究推進委員会（研究のまとめ・アンケート結果考察）
	日	<b>第4回研究全体会（今年度のまとめと来年度の見通し）</b>

※この他に「ことばの集会」（全校朝会の6・11・2月）が入る場合もある。（コロナの状況を見て判断）